

令和3年度鹿児島県地方協議会重点取組事項PDCAシート

○ 茶葉輸送における実証実験の実施

○重点取組事項概要

【茶葉輸送の実証実験】

- ・中継輸送を活用した荷待ち時間、荷役時間、運転時間の削減
- ・実証実験関係者(実運送事業者:安全産業(株)、藤森運輸(株)、事務局:鹿児島県トラック協会、鹿児島運輸支局、日本PMIコンサルティング(株))

○KPI

- ・実証実験において得られた課題、知見を、概要としてとりまとめ、荷主、運送事業者へ共有を図る。
- ・荷主事業者:100社、運送事業者800社

○重点取組事項の取組状況

【茶葉輸送の実証実験】

- ・令和3年10月19～21日実証実験実施
- ・鹿児島県鹿児島市～岡山県倉敷市(中継地点)～静岡県島田市・牧之原市、袋井市
- ・トラック2台(安全産業(株)1台、藤森運輸(株)1台)

【KPIの達成状況(令和3年度)】

- ・令和2年度に実施した実証実験(鶏卵輸送、馬鈴薯輸送)において得られた課題、知見を概要としてとりまとめ、荷主、運送事業者へ共有
- ・鹿児島県トラック協会広報誌に実証実験の概要を掲載し、会員事業者に共有(約800社)
- ・荷主企業への「燃料価格高騰に伴う燃料サーチャージ制の導入について」の依頼文書送付にあわせて、概要資料等を共有(約1,100社)

○課題及び今後の対応の方向性

【茶葉輸送の実証実験における課題】

- 中継のコスト、中継の所要時間、中継のリスクの3つを最小化するための手法を採用する必要がある。
- ・積替え方式を採用する場合、全てパレット化し、リフトで作業することを前提にする必要がある。
- ・乗務員乗換方式を採用する場合、中継点での営業所、倉庫を設置するなどし、拠点を形成することが有用である。
- ・シャシー、荷台(スワップボディ)の交換方式を採用する場合、車両取得が必要とされ、台替えに合わせ進める必要がある。
- ・最適な取組みは、乗務員の交替方式である。この場合、中継点の岡山、兵庫、京都等のエリアに1箇所、中継点として営業所及び倉庫を設置すると効果的である。
- ・改善基準告示の見直しがなされるなか、中継点を設置して、労働時間の縮減に向けた取組を先んじて実施することは有効である。

【今後の対応の方向性】

今年度の実証実験において得られた課題、知見を概要としてとりまとめ、荷主、運送事業者へ共有を図るとともに、次年度以降においても、引き続き鹿児島県において1運行の拘束時間が長く、手持ち時間が長い「農水産品」のうち、需要が多い「農産品・青果物」輸送についての課題の掘り起こしを行う。